

靖北録

文政八年魯西亞人ヨリノ北海道來着以後一冊

伍

第

庫 文 閣 内		和 書 類
六五函	三五二五〇	大冊
二架	號	

和 書	三五二五〇
-----	-------

内 閣 文 庫	
番 號	和 35250
冊 數	6 (1)
函 號	185 184

共六



糊等で貼り付けられている部分がめくれない箇所あり



俄に飛新と我と境と接して竟改申我原氏
 幸多夫なるものを送りて松ありてありて
 西高と清人我彼西の人我をて来り始と
 尔来我邊境より来りて文化西高と
 のあはれ彼西人我東陸と侵をてありて幸来
 此及田必丹号即なるもの再い城ナリ高と
 来りて友を捕して松ありて一屢鞠同と及
 不即の是侵せ一者今く彼西の城に係り
 西高の知り知るありて由を降と加て彼中
 書とて是志なきと流一且号即平と



を還さるんをとてふも不現あるを以て
至中の休逐は彼をを逐してを福に還せしむ
後には邊境を失ふ屬して東西の夷地及
アノ志島の夷民はあつて皆懐柔の由恩
德を仰戴せらるべし
余後其を為陽難をふしむの始末
は因りしもの教千をを西時及府付本文書
中より採擷して靖州外史を著して彼等
亦く遭厄日中絶きと海濱思ふやと彼は德
政の委曲を詳悉すべし
附錄五に列す西下

本役の事は因りし本文書を輯集して前後
参考の用下條を以て

弘化丁未晩夏念日丙の夜休立人感

靖北録卷一

目録

- 一 魯西亞私下口傳之書 文化八年五月九日
- 一 魯西亞私下口傳之書 五月廿七日
- 一 コロウインの書百捕之書 六月四日
- 一 イリフエト物帳之書 六月七日
- 一 コロウインの書捕之始末之書
- 一 コロウインの書捕之始末之書 七月四日
- 一 コロウインの書捕之始末之書 七月十日
- 一 コロウインの書捕之始末之書 七月十日
- 一 コロウインの書捕之始末之書 七月十日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the word 'INDEX' visible in the second column.]

一ノ口キセ礼一書一青

坐

Vertical columns of faint, mostly illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side.

靖北録卷之一

不可不慎齋主人輯

Main body of handwritten text in the left column, written in a cursive style. The text is dense and covers most of the page's width.

辛酉

八月廿七日

村垣侯路書

荒尾組書

以列候

尚月九月五日ヨフ高一月ノ下ヤ仲、魯西亞
を渡す元と来組との同知也、舊知の上陸候
知事は、高知ラウ人、乃元番玉親、以列及
石原、東津、津田、高島、魯西亞、和ラウ
方島、走原、以列、同知人、ヨウ、上、ヨフ、内、フ、ウ、シ、合、
寺、治、長、以、列、及、津、心、ヨウ、年、ノ、下、口、候、以、列、及、津、心、
寺、治、長、以、列、及、津、心、ヨウ、年、ノ、下、口、候、以、列、及、津、心、

中、以、列、及、津、心、ヨウ、年、ノ、下、口、候、以、列、及、津、心、
候、先、口、上、在、以、列、及、津、心、ヨウ、年、ノ、下、口、候、以、列、及、津、心、
以、列、及、津、心、ヨウ、年、ノ、下、口、候、以、列、及、津、心、

東不月

村垣侯路書

以、列、及、津、心、ヨウ、年、ノ、下、口、候、以、列、及、津、心、
以、列、及、津、心、ヨウ、年、ノ、下、口、候、以、列、及、津、心、
以、列、及、津、心、ヨウ、年、ノ、下、口、候、以、列、及、津、心、
以、列、及、津、心、ヨウ、年、ノ、下、口、候、以、列、及、津、心、
以、列、及、津、心、ヨウ、年、ノ、下、口、候、以、列、及、津、心、

志取能九事の廿の月廿七日あはれはるるに
此尚平有款同廿の月廿七日あはれはるるに
良南於家平南の方合令とて同中同を
井拂は限中紙はたふし此是書を以てし
志字平限九事の書状字とて是を中以て
此舟南於仲位あ家と勿漏々外防樂子
為方と彼を中とて舟重々

一節大し此とて之しり治南於家平年より第
級治家平と加勢と後中紙は由舟日而治
人教也百人一月より加勢人教は是中夜限

中之いり水石は和氣級治治味及は如
中いむた加勢人教は平人位も是
治人平是治は舟代也言はより百
限中いり是而水石は下
右は限了治は是如舟は坐

六月廿日

村垣侯路書

出立家江野書
荒尾組馬書

公判後〇〇〇

三月廿五日午十二時に内々ラムイ仲令、魯西要格
書を以て彼等にお知らせせられたる也。此の如く
彼の内々彼等程々書えられたる如く、七月朔に
其彼の内々彼等程々書えられたる如く、七月朔に
直書に書えられたる如く、七月朔に書えられたる
達く書えられたる如く、七月朔に書えられたる
此の内々彼等程々書えられたる如く、七月朔に
その内々彼等程々書えられたる如く、七月朔に
此の内々彼等程々書えられたる如く、七月朔に

此の内々彼等程々書えられたる如く、七月朔に

未〇〇

村田快政書

管月状の内々彼等程々書えられたる如く、七月朔に
直書に書えられたる如く、七月朔に書えられたる
合々此の内々彼等程々書えられたる如く、七月朔に
身知居の内々彼等程々書えられたる如く、七月朔に
内々彼等程々書えられたる如く、七月朔に書えられたる
桶入の内々彼等程々書えられたる如く、七月朔に
此の内々彼等程々書えられたる如く、七月朔に

切也公世貴為及此之辰中事公為國亦治用及
亦於此也其言多入卜達公上之也其於此
書何是為之上也其於此也中下之也其於此也
日殺書之也其於此也書何是為之上也其於此
以中公也其於此也書何是為之上也其於此也
於合八人自捕夫之也其於此也書何是為之上也
書之也其於此也書何是為之上也其於此也書
其於此也書何是為之上也其於此也書何是為之
其於此也書何是為之上也其於此也書何是為之
其於此也書何是為之上也其於此也書何是為之
其於此也書何是為之上也其於此也書何是為之

了之也且又右右捕公之也其於此也書何是為之
家入殺公人外也其於此也書何是為之上也其
也其於此也書何是為之上也其於此也書何是為之
言治也其於此也書何是為之上也其於此也書何
中上之也其於此也書何是為之上也其於此也書
其於此也書何是為之上也其於此也書何是為之

六月廿四日

荒尾祖三書下
村垣法成書下

少之系浮世書下

遠く南へ大嘗西無也。後には是と記す。南に石の城あり。此城は及子よりして。其城は書局の側あり。因に法に及り。アヤノ及石の城。或は書局の側あり。因に五百石積法。此の石の城。原に有る。たふと。千しり。同敷。いふ。此の石の城。人ヨリ。其の石。因に。此の石の城。同敷。有る。たふと。又。為。石の城。あり。

一 中へ。始末。あり。千しり。法。南の。城。人。教。被。止。此。片。下。り。法。文。文。の。人。教。の。内。共。及。五。捕。り。其。人。聖。人。教。の。被。被。引。か。た。し。ら。千しり。

加勢。一。と。是。向。い。極。第。教。法。の。法。及。り。同。而。法。南。の。城。の。中。法。の。水。文。文。の。人。教。の。人。極。有。い。ふ。片。下。り。内。より。五。捕。り。の。た。ふ。と。也。被。被。止。一。重。を。被。止。其。人。教。の。千しり。其。法。一。被。海。へ。有。被。止。り。此。の。法。第。教。法。の。法。及。り。中。被。止。る。世。に。し。為。也。人。の。中。に。有。り。た。道。書。の。中。に。是。亦。別。法。を。有。り。一。法。及。及。り。其。法。第。教。文。文。の。法。以。有。る。を。と。高。而。一。兵。上。其。法。一。被。止。り。其。法。第。教。法。の。法。及。り。片。下。り。早。に。是。之。中。に。世。に。し。中。に。有。り。也。と。

此別後也

先役也此中より魯西重取之り洞内上景
并因不々ラムイ倚上上陸しし其年如未始失
仕に成ると書見記し本海及び皮を捕入京
舟を中する元重公舟子速をせ公上振書人
其を合し如魯西重取以多々之糧未切し月
其法度及ゆり之公由舟因不居洞及び未成
左重魯西重人上重公上る松前表下書月是書
之上何根在舟中其重公右月世進日教而居

書為り重公取中由公重公何人取し其公
魯西重人七人外々ラウ人ヲ口々セ於今八人捕押
重不為進松南物之原重因不居中圍人殺下
書重元書中舟重公如魯西重人九押公取し其
魯西重取し其重公書重公史之防重公子為
方中舟重捕公重公重公重公松前表下書月是書
之公重公重公重公重公重公重公重公重公重公
仕公重公重公重公重公重公重公重公重公重公
外公重公重公重公重公重公重公重公重公重公
松前表下書月是書重公重公重公重公重公重公

乞乃以所予しり浩胆及高胆能其意より意及高
中教の海に世に中しん位

五月

村垣清海

荒尾祖

未七月廿七日物以故へ回天平次高也の位物もを

五月四日予しり物と高商五人七人年ラウ人ロキセ
百補の位に始事別故へ西国不浩又既胆及高
能及高より中教の海に中しん位
予高胆の位に中教の海に中しり浩より高胆の位

高胆の位に中教の海に中しん位

五月

村垣清海

荒尾祖

高胆の位に中教の海に中しん位
能及高胆の位に中教の海に中しん位
出高胆の位に中教の海に中しん位
能及高胆の位に中教の海に中しん位
出高胆の位に中教の海に中しん位
能及高胆の位に中教の海に中しん位
出高胆の位に中教の海に中しん位
能及高胆の位に中教の海に中しん位
出高胆の位に中教の海に中しん位
能及高胆の位に中教の海に中しん位

日本船元號は凡千名船を積入り下帆
形は或艘の書に記し中なる南の象は此
五の記を傍に防戦用意書し年同の在り
この在り力中を子記中在り内を公に海を矣
國記を被乞入公舟は凡定公記帆板に本帆
板拾二石有公記中在り依一葉白公記板は
子モ口地と合高の船火を揚し海原を公記舟
公記の記を井排に積書し居公記書合記洞内中
合の記は公記子に記し網書強く積凡定毎只
凡と黄重板中を載る公記書公記同公七日款

此は網書に記する公記洞内公記入海原
より凡三拾丁余の船原公記公記行橋公記被書し
艘一人殺八人余組合不を月を備公の公記
宜敷と記し同公記公記三席公記同公記を公記
公記公記公記公記公記公記公記公記公記
公記公記公記公記公記公記公記公記公記
公記公記公記公記公記公記公記公記公記
公記公記公記公記公記公記公記公記公記
公記公記公記公記公記公記公記公記公記
公記公記公記公記公記公記公記公記公記
公記公記公記公記公記公記公記公記公記
公記公記公記公記公記公記公記公記公記

大岡為右知如吳公私余宿を中へ親愛居よ
因世八日初又橋舟一艘を一人教七人余組桶板
成子の人年必中達を先へ奉る事附を申上字
の重元形の家原の舟取入了旨南於家揚以
の言忠也の中原の知て先流の中舟船貴人作
を忠形又舟アリウ之の取物船貴舟へ為余組是
出右中お達へ浮桶舟入ん如将を継中切を教
ギヤフの徳利を陽其背目つて余原を合入をの梳曲
へのく船の思愛をのを入をの平流を以達へ外
為方より大岡ををの玉為洞内へ板子お巨細為の

海客を入居重いつる事考の如あを交易教へ更も
三百五十九年存の如是は此為の更を由たの
何れともあるとく其の是の以て其の如は此の如は日
回不復更居よの因舟九日居居をらへ一人橋へ向橋私
成彼家の公舟を船院を以てん如は上陸為船
原橋は吳公人宅居は舟舟貴の舟陸為元或里行も
了有との如は元橋の揚不有の如る南於家揚以
の言揚へ人教是公板中流の如中人教へ更舟人
教引の如は舟舟成候中出の如る為方へ言舟の舟
為方へ言揚を船貴人八月市平各の口へ余元右

之者在下中身物類より凡由以在中中又凡世に以受
之者在下中身物類より凡由以在中中又凡世に以受
或以造河三本奈新九拾浦程程三夜施之教
与合私之艘思之序旋之提治天注右為之棚也
有来海之及年之及之横籃橋板之有之板也
其の棚板下魚西無文字形身株上治身有之身
指来注の段中身の身物類より凡由以在中中又凡世に以受
存の身物類より凡由以在中中又凡世に以受
此の身物類より凡由以在中中又凡世に以受
此の身物類より凡由以在中中又凡世に以受

此の身物類より凡由以在中中又凡世に以受
新島合船の中身物類より凡由以在中中又凡世に以受
此の身物類より凡由以在中中又凡世に以受
此の身物類より凡由以在中中又凡世に以受
此の身物類より凡由以在中中又凡世に以受
此の身物類より凡由以在中中又凡世に以受
此の身物類より凡由以在中中又凡世に以受
此の身物類より凡由以在中中又凡世に以受
此の身物類より凡由以在中中又凡世に以受
此の身物類より凡由以在中中又凡世に以受

用ハアリ立ニ於合ハ人ニ及ビ知同人子為中申在
水白も波乃の根子而し高外に書要更に公海に
海の中より更に書く正しく又い極井枯物に極方
至服者人作と東次年未竟し多しキ。サヤマ。シカ
セツケ五物九人乃て運居る如物に極方なる如
南の最物に於て極方と極方と極方と極方と極方と
物水なる元如極物に極方と極方と極方と極方と
或る下は如日本は之に極方と極方と極方と極方と
中へ先く極方と極方と極方と極方と極方と極方と
その極方と極方と極方と極方と極方と極方と極方と

とせん極方と極方と極方と極方と極方と極方と
一極方と極方と極方と極方と極方と極方と極方と
より中へ一極方と極方と極方と極方と極方と極方と
南の最物に極方と極方と極方と極方と極方と極方と
極方と極方と極方と極方と極方と極方と極方と
年九月に於て極方と極方と極方と極方と極方と極方と
中へ先く極方と極方と極方と極方と極方と極方と
極方と極方と極方と極方と極方と極方と極方と
シヨク早建極方と極方と極方と極方と極方と極方と
極方と極方と極方と極方と極方と極方と極方と

其切りの際も一山程下り及ぬ所は南極に
至り及居居るに及ぬ人々の上程に始末中之
いふ事不自由なる事多し月一日の間に
船中へいへ上及ぬ事多し由中中水友に
元氣の帆上二回中程の帆上程下及る
中中程の帆上二回中程の帆上程下及る
下及中中程の帆上二回中程の帆上程下及る
その元氣の帆上二回中程の帆上程下及る
其の元氣の帆上二回中程の帆上程下及る
其の元氣の帆上二回中程の帆上程下及る
其の元氣の帆上二回中程の帆上程下及る

其の元氣の帆上二回中程の帆上程下及る
其の元氣の帆上二回中程の帆上程下及る
其の元氣の帆上二回中程の帆上程下及る
其の元氣の帆上二回中程の帆上程下及る
其の元氣の帆上二回中程の帆上程下及る
其の元氣の帆上二回中程の帆上程下及る
其の元氣の帆上二回中程の帆上程下及る
其の元氣の帆上二回中程の帆上程下及る
其の元氣の帆上二回中程の帆上程下及る
其の元氣の帆上二回中程の帆上程下及る
其の元氣の帆上二回中程の帆上程下及る
其の元氣の帆上二回中程の帆上程下及る
其の元氣の帆上二回中程の帆上程下及る
其の元氣の帆上二回中程の帆上程下及る
其の元氣の帆上二回中程の帆上程下及る

此を約定し物橋に博事なり。博事なるは
博事なるに物橋の事なり。博事なるは
博事なるに物橋の事なり。博事なるは
博事なるに物橋の事なり。博事なるは
博事なるに物橋の事なり。博事なるは
博事なるに物橋の事なり。博事なるは
博事なるに物橋の事なり。博事なるは
博事なるに物橋の事なり。博事なるは
博事なるに物橋の事なり。博事なるは
博事なるに物橋の事なり。博事なるは
博事なるに物橋の事なり。博事なるは
博事なるに物橋の事なり。博事なるは

博事なるに物橋の事なり。博事なるは
博事なるに物橋の事なり。博事なるは
博事なるに物橋の事なり。博事なるは
博事なるに物橋の事なり。博事なるは
博事なるに物橋の事なり。博事なるは
博事なるに物橋の事なり。博事なるは
博事なるに物橋の事なり。博事なるは
博事なるに物橋の事なり。博事なるは
博事なるに物橋の事なり。博事なるは
博事なるに物橋の事なり。博事なるは

及一人橋舟渡指此處市社公午品飯との共く書
以て何とて申す以帆何とて書其教は積以て何
河の勢いの中公地地所爲ふと及公指す
此らへ下ルル水と申す以帆キナイナリと申す也
此ら有て以て何と申す申す力にともはれ凡順
不道尚洞内ハ出入の要有る由申相衆之友
市社公の事并同々少可程なるも不吉なる事ハ文
度申中申公事下中申事組との人教と何程
程程と有てはれと申す也人教ハ何人
程程と申す也申中申公程程と申す何程程ハ及

江中申公知凡ハ給渡甚度及るしは舟舟中申
此等舟ハ渡らる隨て是等一下は舟舟先年
此等舟ハ何方ハ國人渡来するに日申地内
渡来渡ら来此等舟有る知々渡船實地
は舟下口ヲ橋ノ渡渡来及礼好とする前後日本
地ハ内河とて知渡来する人其書傳の事也
其後渡有るに其は尚洞内ハ出入の事ナリ
此等舟ハ舟ハ不道程便に程舟有て程舟舟
子知して有る也及公書は舟舟舟舟舟舟舟舟
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

松前表下之書向の上ニ是也公馬世返最三軍
日七書を以丹為河内下書候宗之方在三人内中合
マキキある人改上陸正兵格中入河内と云一事候
陸少如左以先元氣也五為一同書候上又公上
陸了後中書公馬世返最三軍
陶馬一書候不書候以帆波以白を改改不物
馬河内也七改公之志一人と云キモ其書公格候
無事を以中書少之在中之也又入不中一同換候
不及之書公馬尚又中書少六日平人今為不
事息不也也吾了り事少波候在肉内為人候

以松前中書少之改改早耳也石を改改入延公
以丹也如九押書少之格也其書被贈私格也上
之在私中書少之領子権利の内之を陣外候曲物
之を公上之公之合書之角之口之也又之魯西亞候
之書少之改改中書少之改改也又之九押之志在書
取後也其書少之繩を入中書少之如右之権子元氣
不唐之格也其書少之仕少之権子丹南物家也其
之書少之改改防親之也此為改改合一同合書之
在版書人其也中書少之改改在書圓岳之知是九時
元氣之書少之其書少之南物家也其書少之百月

筒をよけ如玉紙より彼方より大筒を投て
至會所并此處を以て西海軍備を以て
南方より同心を會所と名付て大筒道
八重村迄と仕置りて是等舟に舟楫を以て
不中波中へ沖るゝ船を以て舟楫を以て彼
方より舟を以て大筒道へ向て舟楫を以て
三寸余の舟を以て舟楫を以て舟楫を以て
之を以て舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て
又舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て
舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て

中書屋へ是等の舟を以て舟楫を以て舟楫を以て
之を以て舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て
地上書院及び中書屋に及んで舟楫を以て舟楫を以て
是等の舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て
舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て
同心舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て
舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て
舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て
舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て
舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て
舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て舟楫を以て

私仕居る南朝家人殺す之款十日也此後身
神も方止り根子て凡唐會和るは同根元始
以舟か勢人殺す公と内重以舟兼て未成下以
為方より字頼元公右内下元私より大同寺を以
九押ひとの八人海原勢あて寺果公神と殺した向
石舟を以て舟敷へ入重河背る容魚の神海原
認め元公の以舟中を果の石九押ひ又ひケラムイ
書屋下向橋中殺す殺す公より遠照境を以て凡公
事務深く解えたり併上陸し根子の備床ひは
船美人高花の八元公を以て和テレケウ之書屋前

海原中第より草袋包物二つ私合四元重因和書
屋より中申の深重公公米八袋葉障きり給夫は公
派中申同日夕方元私申する乞公を居る昨又
日元公の字頼元公の凡公は凡公の文字より公思ひ書
舟を殺入外河原も舟は凡公同七日相見公船内
内公申すケル公の荷を和勢中舟の帆形も書え不
中の字頼元公上日仕公更也舟の更より世公の如テレケ
ウレ上重公包物書屋中書改め和第内書書
斗有る包物内書を名勢根子為公包也也舟の
包石包物云先を以て凡公の如也舟の且申命書合

船に出入りたるは是に何事も入重なるに就水に吳
船大筒迫合未仕は終に帆舟而又有新家其以
去揚に於船を燈し又仕是あり下後舟中其
九押公名有は舟の蒙受の書成り下は
其船を以て防戦に為す舟中淡合其
於と海原を東西に置置るに重なるに
後と一向帆形も書え不し且再洞仕は舟押
其に名取に余と洞は出たり其書成り
札は舟の書成り舟は舟に延川其成り
其洞に書成り舟は舟に延川其成り

冠々の舟每同廿四破子便利其排は海
地海原に書成り舟は舟に延川其成り
舟は舟に延川其成り

未七月

宗依在焉

十九

本文九押公始末名未後先在中上仕
其事之公終と海原に重なるに後舟中
舟九押公は始末名未舟中其後舟中
其事之公終と海原に重なるに後舟中
舟九押公は始末名未舟中其後舟中

此より今来も中知不申るる因取らるる由
上より洞元之由候事

未七月廿日 案于松前

八月九日 案于松前 内知申上 魯西亞船
を渡するに因り申上 船中 船員 船長 船主
石坂 船員 船長 船主 船員 船長 船主
此の申上 魯西亞船 船員 船長 船主 船員 船長 船主
船員 船長 船主 船員 船長 船主 船員 船長 船主
船員 船長 船主 船員 船長 船主 船員 船長 船主

福留内 船員 船長 船主 船員 船長 船主
船員 船長 船主 船員 船長 船主 船員 船長 船主
船員 船長 船主 船員 船長 船主 船員 船長 船主
船員 船長 船主 船員 船長 船主 船員 船長 船主
船員 船長 船主 船員 船長 船主 船員 船長 船主
船員 船長 船主 船員 船長 船主 船員 船長 船主
船員 船長 船主 船員 船長 船主 船員 船長 船主
船員 船長 船主 船員 船長 船主 船員 船長 船主
船員 船長 船主 船員 船長 船主 船員 船長 船主
船員 船長 船主 船員 船長 船主 船員 船長 船主

七月八日

青 小神鳥

七 大秋次

牧 海前鳥

松 伊豆鳥

荒尾組鳥及

未七月廿四日

此書用狀均出意公物之魯西軍人等書死以故
第後居此處及了列派之每中致公鳥名字是也
中口宜出親中其物上以積後一及公左以了均

此書意公物均出上

七月八日

荒尾組鳥及

小字系浮體鳥及

村垣津函書和

未七月八日

此書用狀均出意公物之魯西軍人七人并了了人作
此口宜出及初中物公之每中致公鳥名字是也
多公年要洞之右鳥及公物也知宜其物上有以積後
一及公物上

七月八日

大橋榮次郎

片木甚肉根

列後、勿魯西亞人、其地、以條、仕、以、作、ラ、ラ、人、長
魯西亞河、の、下、未、熟、入、組、の、事、不、知、後、も、有、し
河、中、之、魯西亞人、仕、故、地、を、以、事、奉、事、の、後、も、仕
在、の、月、以、條、を、案、中、と、少、く、之、條、合、し、有、り、ハ、
再、必、事、先、に、粗、教、仕、の、條、も、將、中、を、以、事、奉、の、條
ト、上、重、の、坐、

未七月

大徳宗次郎

吳西人、廿八人、カ、ロ

役名

カヒタン
ヤキイタクタンカシケタマヨル

は、マヨル、と、テ、國、岳、の、條、役、名、の、形、を、以、
カ、ヒ、と、魯、西、河、を、外、船、中、に、事、奉、ま、し、
を、取、万、事、を、以、ら、し、由、

勿魯西亞河内

姓名

イソシヤシ

ロシイミイチカバリシ

勿魯西亞河内

未三十六

役名、レイチヤシト

イレイチヤトトヤ名私由及名由カヒタ
ニテ改て私申し人教もリトイフコト也

同ベニヤ

姓名
ヒヨウトロイイキモウル

末二十八

及名バイタロトヤ

世ハイタロトヤトヤ志私改及事私由
トイフコト也

同ハニタラハニ

姓名
アニテレイチレフニコウ

末二十六

マタロス

世マタロストヤ志私改及事私由
カヒタニテ改て私申し人教もリトイフコト也

牛國エレニヤニ

マカロフ

末三十二

同アラハンニヨスコイ

シカヨフ

末三十

同カシタラマ

レイモノフ

末三十八

同セニベリスコイ

ワレリヨフ

末二十九

ラッワ人
口キセ

末二十四五位

世々ラッワ人南名を以てしてユトカ由是ハ親

トシテハ名ヲ如ク坂名トシテ人トシテキセト名アリ由

一 何故何止一和出帆何方一兵船也

曰今半兵衛曾西里一内へテルホルより出カムサワカ

来りし船より和名を以て送る我年也故一由

由世如ク口キセ和名程と云ふ不トハ云カサツカ

ト云ヒキキ年然年故一由由の由を和名帆ハ

出ルキナシリる万由一由を是出中ハ云一由

有一由はキセ一由はキセ一由中一由ハ

一 右 海軍世方ト云由不トクナシリる居合キセ

以テ又キセ自ラキセ一由ハ有一由ハ

右 海軍キナシリる居合ハ積上陸一由ハ指来

一由ハ由及人ト云ハ居合ハ居合ハ居合ハ居合

漫と居合ハ居合ハ居合ハ居合ハ居合ハ居合

居世方ト云ハ居合ハ居合ハ居合ハ居合ハ居合

居ハ居合ハ居合ハ居合ハ居合ハ居合ハ居合

中由ハ居合ハ居合ハ居合ハ居合ハ居合ハ居合

再キセハ居合ハ居合ハ居合ハ居合ハ居合ハ居合

千レリと未レハ其レ者レハ心レヲ其レ中レハ
一 船中系組人殺何人ハ其レ方其捕レヨ船中
強レハ其レ方其何人有レハ

私其船中系組人殺何人ハ其レ方其捕レヨ船中
書強レハ其レ方其何人有レハ
何レハ次及レハ其レ方其

一 今方其捕レヨ元私強レハ其レ方其捕レヨ船中
其レ方其捕レヨ元私強レハ其レ方其捕レヨ船中
其レ方其捕レヨ元私強レハ其レ方其捕レヨ船中
其レ方其捕レヨ元私強レハ其レ方其捕レヨ船中

私其千レリと未レハ其レ者レハ心レヲ其レ中レハ

一 今方其捕レヨ元私強レハ其レ方其捕レヨ船中
其レ方其捕レヨ元私強レハ其レ方其捕レヨ船中
其レ方其捕レヨ元私強レハ其レ方其捕レヨ船中
其レ方其捕レヨ元私強レハ其レ方其捕レヨ船中

一 今方其捕レヨ元私強レハ其レ方其捕レヨ船中
其レ方其捕レヨ元私強レハ其レ方其捕レヨ船中
其レ方其捕レヨ元私強レハ其レ方其捕レヨ船中
其レ方其捕レヨ元私強レハ其レ方其捕レヨ船中

一 今方其捕レヨ元私強レハ其レ方其捕レヨ船中
其レ方其捕レヨ元私強レハ其レ方其捕レヨ船中
其レ方其捕レヨ元私強レハ其レ方其捕レヨ船中
其レ方其捕レヨ元私強レハ其レ方其捕レヨ船中

以又... 吾... 子... 捕
以... 中...

一... 如何方
... 如何方

... 如何方

... 如何方

... 如何方

... 如何方

... 如何方

... 如何方

私中... 如何方
... 如何方
... 如何方
... 如何方

未七月

大橋栄次郎

未七月... 如何方

如何方... 如何方
... 如何方
... 如何方
... 如何方

右於書ハ毎年書一冊書添於各冊凡在中之魯
西重人思以始末書之後之書年公言而之西重
書之此先因於由是公之言上之也及乃及也
存之於上後之書多將く由是公之言也
復元之由是公之言也
之為之由是公之言也
作之由是公之言也
書之由是公之言也
公之言也
之由是公之言也

中於公於後一及万一在也及也
一魯西重人思以始末書之
一魯西重人思以始末書之
一魯西重人思以始末書之
一魯西重人思以始末書之
一魯西重人思以始末書之
一魯西重人思以始末書之
一魯西重人思以始末書之
一魯西重人思以始末書之

西國人の目撃した故のこゝに重光の事も不々
存する中、實令と上毎繩光先一且時々栖坐
を来り暮日、馬凡烈愛重如火余をいひるを
凌乘の此より川右重光、何を扱ひ火をいひ
物白く九扱方宮仲とく、少くお地め事一、
此尚不活陣位事、故のこゝに重光、
頼外并火、先お別る、い月、格中を重光、世以爲
此の如く、多し、い、偏魯西重人の、方、中、
と、い、病人、中、い、格、い、及、い、故、未、い、
い、と、南、と、遠、い、南、重、光、を、重、光、の、此、中、

い、何、中、い、重、光、を、い、い、此、身、格、事、い、い、
更、是、と、い、重、光、を、い、い、南、も、い、い、
右、と、い、重、光、を、い、い、動、中、い、い、
重、光、の、例、を、い、私、に、い、掃、い、初、重、光、と、
い、内、補、肥、い、格、外、い、九、掃、い、陣、位、事、中、
い、重、光、の、事、を、い、重、光、を、い、重、光、を、い、
い、重、光、の、事、を、い、重、光、を、い、重、光、を、い、
い、重、光、の、事、を、い、重、光、を、い、重、光、を、い、
い、重、光、の、事、を、い、重、光、を、い、重、光、を、い、
い、重、光、の、事、を、い、重、光、を、い、重、光、を、い、
い、重、光、の、事、を、い、重、光、を、い、重、光、を、い、

地めつ我取也此いんを限子段を以て作すは
いし及び

一チシリるは上方より出る魯西亜人なり
この地を流るる東に有るは持積の積委細
同人より決す

一と云ふ魯西亜人少服其地ハ假令ハ妨段
の地同水ノ上ニユメシ乙名ハ左ニハ横文字
手有るは魯西亜人下為積ハ知別成色并
書ハ色有る右ニハ如想ホナハ色并書入
流ハ方ニ有るは右横文字ナリ

一と云ふ魯西亜人少服其地ハ假令ハ妨段
の地同水ノ上ニユメシ乙名ハ左ニハ横文字
手有るは魯西亜人下為積ハ知別成色并
書ハ色有る右ニハ如想ホナハ色并書入
流ハ方ニ有るは右横文字ナリ

一と云ふ魯西亜人少服其地ハ假令ハ妨段
の地同水ノ上ニユメシ乙名ハ左ニハ横文字
手有るは魯西亜人下為積ハ知別成色并
書ハ色有る右ニハ如想ホナハ色并書入
流ハ方ニ有るは右横文字ナリ

一魯西亜人少服其地ハ假令ハ妨段
の地同水ノ上ニユメシ乙名ハ左ニハ横文字
手有るは魯西亜人下為積ハ知別成色并
書ハ色有る右ニハ如想ホナハ色并書入
流ハ方ニ有るは右横文字ナリ

此為先帝白由書也其意以此後彼出與國和也其
意和別後年書也其意不審也一廉也有一山也其
於又魯西垂人其為方之也卑一書也有一山也其
出在九山之財之相列之也及之世返一村之白也其
更之也一自之書也其意貴也其書之也上之書也
中之也其也其方也其也其也其也其也其也其也其
重之也其也其親補也其也其也其也其也其也其也
左之也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
私之也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
利之也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

先之也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
一魯西垂人其也其也其也其也其也其也其也其也
也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

十月晦日

荒尾祖三書

小室東洋樓書

材種名馬鹿

赤青月廿七日 駿河馬鹿、山鹿、鹿、馬鹿

魯西亜人死すも馬鹿也

大日本西王天を以て馬鹿と云ふは世に於て又馬鹿
由之を以て馬鹿と云ふは世に於て又馬鹿
馬鹿の由之を以て馬鹿

魯西亜馬鹿馬鹿

改名カビタン

名馬カワピン

改名レイチアネド

名馬モウル

改名レトロマン

名馬レフニコフ

マタロス

名馬

マカロフ

シカヨフ

レイモノフ

ワレレヨフ

ラッワ人

ヲロキセ

當之原白手之上教書

此等乃極由賢高難有也推考為之公丹先
以之私其古早公取之推考注之乃之存余之取也
在乃之公物如也等乃極在乃之公物如也等乃極
則有之公丹以也於之極余之公丹以也於之極
之於也皆賢高難有也推考為之公丹先
了之也乃之公物如也等乃極在乃之公物如也等乃極
之受也等之上也乃之公物如也等乃極在乃之公物如也等乃極

此等乃極由賢高難有也推考為之公丹先
以之私其古早公取之推考注之乃之存余之取也
在乃之公物如也等乃極在乃之公物如也等乃極
則有之公丹以也於之極余之公丹以也於之極
之於也皆賢高難有也推考為之公丹先
了之也乃之公物如也等乃極在乃之公物如也等乃極
之受也等之上也乃之公物如也等乃極在乃之公物如也等乃極

此乃乃を子中との色種凡流流仕成及也又此
 一陽和私在二日不斗も候元在將矣仕成身全
 柳中身中陽不斗の事なく官料未も有也此候
 也中由らひ種仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成
 仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成

一ホフシトフ。ダーニタフ。控を書内置仕成身全
 要書と云ふ事不宣との候仕成仕成仕成仕成仕成
 手多入の仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成
 と勿論流仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成
 此乃乃を子中との色種凡流流仕成及也又此

此乃乃後了有仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成
 要書平及人仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成
 死刑の私仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成
 手多入の仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成
 一此候候仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成
 手多入の仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成
 仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成
 仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成
 仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成仕成

等如く史官は仕はる日本に地は私を我事
以て悦ばず口は偽り信を念官料を多し
中上直意忠を以て仕はる一國將有子
中子為を由に中上直意忠を以て仕はる
後日將汝を由に中上直意忠を以て仕はる
遠征は後直意忠を以て仕はる

一 此直意忠私を以て仕はる中上直意忠を以て仕はる
中上直意忠を以て仕はる中上直意忠を以て仕はる
中上直意忠を以て仕はる中上直意忠を以て仕はる
中上直意忠を以て仕はる中上直意忠を以て仕はる
中上直意忠を以て仕はる中上直意忠を以て仕はる

後手は公世服由考毎々不私を以て仕はる
了り公世服由考毎々不私を以て仕はる
了り公世服由考毎々不私を以て仕はる

一 此直意忠私を以て仕はる中上直意忠を以て仕はる
中上直意忠を以て仕はる中上直意忠を以て仕はる
中上直意忠を以て仕はる中上直意忠を以て仕はる
中上直意忠を以て仕はる中上直意忠を以て仕はる
中上直意忠を以て仕はる中上直意忠を以て仕はる

一 此直意忠私を以て仕はる中上直意忠を以て仕はる
中上直意忠を以て仕はる中上直意忠を以て仕はる
中上直意忠を以て仕はる中上直意忠を以て仕はる
中上直意忠を以て仕はる中上直意忠を以て仕はる
中上直意忠を以て仕はる中上直意忠を以て仕はる

中世... 由好名を... 由好名を... 由好名を...
由好名を... 由好名を... 由好名を...
由好名を... 由好名を... 由好名を...
由好名を... 由好名を... 由好名を...
由好名を... 由好名を... 由好名を...
由好名を... 由好名を... 由好名を...
由好名を... 由好名を... 由好名を...

一由好名を... 由好名を... 由好名を...
由好名を... 由好名を... 由好名を...
由好名を... 由好名を... 由好名を...
由好名を... 由好名を... 由好名を...
由好名を... 由好名を... 由好名を...
由好名を... 由好名を... 由好名を...
由好名を... 由好名を... 由好名を...

エトワ... 由好名を... 由好名を...
由好名を... 由好名を... 由好名を...
由好名を... 由好名を... 由好名を...
由好名を... 由好名を... 由好名を...
由好名を... 由好名を... 由好名を...
由好名を... 由好名を... 由好名を...
由好名を... 由好名を... 由好名を...

魯西亞國年曆
千八百十一年十月
カヒタ
ガワビン
魯西亞國皇帝王后

レイナント
モウトル

シトコフ
ニコフ

前年魯西亜人於此に外遊集るるに魯西亜
人再之を以て人なるを中と之に此を再仕にを
お遊に

未十月十八日

上京惣次席

云々魯西亜人少服夷地へ假令礼始仕
言因如くシニコフと云々魯西亜人なるを
以横文字キリ月毎に書

中服夷地と云々云々不汝魯西亜皇帝アリキ
シトコフニコフ列を以て月毎に八百の年十月
十日^{文化ニ家年有}少服夷地へ假令礼始仕魯西
服名ユナ服中を及人あつたよりあるし
のふ少服夷地西に方入にシニコフと云々
兵を以て名ト治沙を殺給るる故に治のと同
き箱を魯西亜に服心と云々申遊を以て月太
乃能如世書付くあつたより京京押並に魯西
亜に外に少服夷地に假令礼始仕に云々想し
るに云々附たるに云々云々を云々了り云々

而、扣ラストフ之物持、是言也、凡、主、以、此、指、其、
思、有、之、也

魯西亞國海上及人

及名

レイチアト
名

アフストフ

列、汝、事、身、甲、必、舟、の、キ、ウ、ル、ハ、レ、フ、ニ、コ、フ、ト、為、廣、右、書、
而、知、身、仕、ハ、此、前、書、に、色、由、丹、ハ、且、列、汝、事、身、舟、旗、
標、之、の、画、有、リ、ト、凡、此、事、也、事、而、之、也、ト、魯、西

亞、中、事、に、記、事、ト、由、丹、ハ、由、前、事、也、アフストフ、海、上、の、
人、及、名、レ、イ、チ、ア、ト、ト、思、有、之、也、凡、同、人、及、及、今、
之、に、德、原、と、稱、之、く、德、業、也、緣、仕、ハ、名、也、列、汝、
事、身、を、指、其、人、を、德、け、之、也、凡、此、事、也、及、を、思、之、
事、而、之、也、凡、此、事、也、謀、書、に、後、在、不、知、命、ト、文、而、
有、之、一、物、之、文、名、也、凡、此、事、也、凡、此、事、也、
以、限、ガ、ワ、レ、シ、外、此、人、ト、中、之、也、凡、此、事、也、
上、之、也、上

未、月

上、京、慈、次、所

宋十月廿八日丙寅于四

以出用状以也意以此之先後是也魯西重人
因本之始末橫文字之寫意以平身再千しりる
百柄之後魯西重紀之字重之柄入有之横又
字之身上下口フアトイヤ上陸均一ハ高石版或も意
及之柄板千しりる之と先重之柄板横又文字
字之身重西重人ハ為漢右也其書字ニ冊并横又
字之身文字之柄板横文字之身文字又教之身
以之也其意之上也之身重之身ハ右横又文字之
廣之上和解しりる之身重之身ハ右横又文字之
身重之身

を以て及之身重之身ハ右横又文字之身重之身
右重之身之上也其意之上也之身重之身ハ右横又
一先後是也魯西重人後本之書情尋書之内
ラシヤワ人ノ言也書身之重版ハ廣ト有ハ右横又
書身之柄列紙ハ柄重之身重之身ハ右横又
其意之上也之身重之身ハ右横又
右之横又柄重之身重之身ハ右横又

十月十日

荒尾組之書

少室系仁勢之書

村垣隆為之書

魯西亞人渡来し始末を悉く横文字書す
西字

魯西亞國曆教文百七十七年四月廿二日
不_{地名}國主より中府へ由らぬ_{地名}ゲニヤラウアンセエフ
ハヒヤウワレレウイチナイヤゴフカ_{地名}カムトヤ_{地名}カ
造私倉と法取因り横田一_{地名}月右船中お宗組
手及ガワビレ_{地名}カビタレ。モウル_{地名}カ
改めレイチアセント。レフニコウ_{地名}カ
カコフ。レカコフ。レイモノフ。ワレリヨフ_{地名}カ
船中働つし_{地名}カ
強い_{地名}カ
カ
ヤ
地
ニ
外
合
入
船
中
年
育
内
ポ

船中働つし_{地名}カ
強い_{地名}カ
カ
ヤ
地
ニ
外
合
入
船
中
年
育
内
ポ

ウルムウワト波を私に承る令旨物に西平内同
油焼酎を麦粉とる梅の焼酎を賣入申す
シヤ、内カセリナト入傳つぬ、此右ガラジリヤと
兵隊の海上を遊玩し、播磨の舟因らず波に
後令旨物承水ホ賣入、因らず帆、要事利加を承
し、海上を波に承、本年四月、向は、是因
内カワプロ波入傳、此右海上を遊玩し、波
荒く、私に換り、波に承、此右積高物不、陸
揚波、一、物を揚り、入重、此右、一、因波、海
私、波と加、波を、此右、舟、因、波、承、

令旨物承、此右、賣入、聖、年、四月、向、は、是、因、不、出
帆、之、レ、テ、の内、タ、ナ、ト、入、傳、つ、ぬ、令、旨、物、承、入、新、水
書、形、因、不、出、帆、同、年、十月、以、カ、ム、ヤ、カ、波、を、私
ベ、テ、ル、ホ、ル、ト、積、口、の、高、物、の、内、事、を、カ、シ、マ、カ、
高、揚、物、の、高、物、を、此、右、聖、利、加、ト、積、口、の、高、カ、
ヤ、カ、波、入、波、を、シ、マ、ラ、ウ、ソ、ル、姓、名、イ、ウ、シ、キ、リ、コ、ウ、シ
ウ、イ、チ、ロ、ベ、ト、ロ、ス、ト、イ、カ、中、の、事、を、私、に、承、
此、右、令、旨、物、承、人、教、へ、る、事、私、中、の、事、を、私、に、承、
書、中、の、事、を、私、に、承、入、聖、年、四月、向、は、不、出、
出、帆、中、の、事、利、加、の、内、ノ、コ、ハ、ラ、ア、ン、ゲ、ル、ス、コ、イ、ト、波、入、

津運送て雨と陸揚回不及今書後官島新
水未積入回不出帆つて回奉九月以カニヤ
陽帆回不る後秋奉周吉書解てルホル下
陽帆積水カニヤ方より廣車下帆出帆を
月極る云帆つて回奉今官島中陽帆の
後存之月極る官島新水未積入云帆と高
四月下旬カニヤ方後出帆九奴中余乞出帆中
るら途程凡水とあ積る波打込官島信と春
水入重の積痛あり申也云帆と外流船あり陽
信と書後程後注日舟化書信く地方も書乞不

中申る陽の五と陽書晴云帆ラ旨ワ陽云セリ
陽の申るる地方も書乞出帆今官島新水未積
一及たあ陽とるカ帆を乞出帆の陽と云セリ
陽と波と陸揚る松子夫人下書尋云帆水積不
九層并新水取の積り申也申私作下少書
或百羽書百合干家と云帆出帆世書陰云帆
毛リ陽云ルツ陽と積り有難免書百合を
外尋も信り有由申云云云云陽出帆云
シリ陽と云帆積水と下け松子波云云帆積
出く大帆然り信り申云云回不出帆云ルツ陽

月桂又出及人トガロト持ある情討入公積子陶
一ツ持持持及至眼乞坂一私持一月正為以是法
草き以懸美人ト有能出有貴法古法礼未網
草少ト有也一用元私ト有為有ト有ト有ト有
法有持也ト有ト有ト有ト有ト有ト有ト有ト有
合有世及人ト有延礼網少ト有持也一為東
ト有法法有未ト有ト有ト有ト有ト有ト有ト有
人ト有持也ト有由白校及持及世及也ト有先私
ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也
持也ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也

貴史及法ト有ト有ト有ト有ト有ト有ト有ト有
人在一月正為眼乞網於又ト有ト有ト有ト有ト有
元私ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也
正法ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也
因和法ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也
不後利ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也
ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也
ウルト有持也ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也
ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也
ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也
ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也
ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也
ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也ト有持也

以是言アトイヤルは是の事也其の事の外ニ言ワ人
たもアトイヤルは是の事也及人ト云フを以テ言
律尉入公破子圖之居及人ト云フを以テ言及人
是の事也其の事也及人ト云フを以テ言及人
トイヤルは是の事也其の事也及人ト云フを以テ言
モウレ。マタロス曰人ト云フを以テ言及人ト云フ
以是言口出ク元私私私私私私私私私私私私私私
橋本ト云フは是の事也其の事也及人ト云フを以テ言
シロキセをアトイヤルは是の事也其の事也及人ト云フ
及人ト云フは是の事也其の事也及人ト云フを以テ言

夫より日暮りたる地方も不吉なる事向風強ク下
口ト云フ事も是の事也其の事也及人ト云フを以テ言
内儀事晴ニ云フは是の事也其の事也及人ト云フを以テ言
をく見ゆは是の事也其の事也及人ト云フを以テ言
シロキセをアトイヤルは是の事也其の事也及人ト云フ
書事也其の事也及人ト云フを以テ言及人ト云フを以テ言
出及人ト云フは是の事也其の事也及人ト云フを以テ言
ヤ出帆後教日波原流合島各各各各各各各各各各各
及人ト云フは是の事也其の事也及人ト云フを以テ言
其後及人ト云フは是の事也其の事也及人ト云フを以テ言

一月及書候々ナリ地方より三回里程申上私書
のめし海産書開いしめ橋本を元弘の如元弘を
幸く書候橋本為元弘の如元弘の如元弘の如
陸地を西込不仕キル橋本を為元弘の如
を元弘の如元弘を地方をく書候の如地方より大
角の如キハ書候一は為元弘の如元弘の如
を後方同書候し不仕ル地方より元弘の如
中元弘の如元弘の如元弘の如元弘の如元弘の如
流しし(官書)元弘の如地方より元弘の如
を後方ガワビシ。スレズニ。マタロス口人ヲロキセ共
七人宗廻アトイヤニ書候の如元弘の如元弘の如

素々ナリ地方をく橋本を元弘の如元弘の如
陸地を西込不仕キル橋本を為元弘の如
を元弘の如元弘を地方をく書候の如地方より大
角の如キハ書候一は為元弘の如元弘の如
を後方同書候し不仕ル地方より元弘の如
中元弘の如元弘の如元弘の如元弘の如元弘の如
流しし(官書)元弘の如地方より元弘の如
を後方ガワビシ。スレズニ。マタロス口人ヲロキセ共
七人宗廻アトイヤニ書候の如元弘の如元弘の如
素々ナリ地方をく橋本を元弘の如元弘の如
陸地を西込不仕キル橋本を為元弘の如
を元弘の如元弘を地方をく書候の如地方より大
角の如キハ書候一は為元弘の如元弘の如
を後方同書候し不仕ル地方より元弘の如
中元弘の如元弘の如元弘の如元弘の如元弘の如
流しし(官書)元弘の如地方より元弘の如
を後方ガワビシ。スレズニ。マタロス口人ヲロキセ共

得せしむる事にて有也此と申事一ツルカコウフ。
マタロス人橋中ノ宗祖ノ名ハ如後ノ如クハ
不レハルハ方元ハ如クハ如クハ如クハ如クハ
存川有レハ如クハ如クハ如クハ如クハ如クハ
ケラムイモト合物ノ事積入余ハ如クハ如クハ
ビシ。モウル。ヒワトウフ。マタロスニテ人ノコキセタ甘口
人宗祖ハ如後ノ上陸川水及方元ノ如クハ如クハ
方より日本ノ人ノ宗祖ノ事三人ノ名ハ如クハ
ヒワトウフ。マタロス人橋中ノ事一ツルカコウフ。白木
ノ小旗ヲ持テ途中ト云ル事ハ如クハ如クハ如クハ

子孫ハ如クハ如クハ如クハ如クハ如クハ如クハ
少木ヲ持テ水橋ノ柱ノ事橋中ノ水橋持運ハ
ノ用ニ如クハ如クハ如クハ如クハ如クハ如クハ
少木ト云ル事ハ如クハ如クハ如クハ如クハ如クハ
ト。ツルカコウフ。ヤコウス。マタロス拾人ノ如クハ
九人橋中ノ事ハ如クハ如クハ如クハ如クハ如クハ
ハ如クハ如クハ如クハ如クハ如クハ如クハ如クハ
又ハ川水及方元ノ事ハ如クハ如クハ如クハ如クハ
如クハ如クハ如クハ如クハ如クハ如クハ如クハ
テト如クハ如クハ如クハ如クハ如クハ如クハ如クハ

五公浮橋をわめけんかかまふ
物と京持まふそは乃橋板足重公
書考の北是と種か流流
汝と出及人まふひび
かつてはあふ伊新把市並
右橋中入人終浮橋足重元
ふあふ北陸より白き
出見や橋水ふあふ
より日中入振夷人五公橋
上陸いーかつてころるを
右日本人あふ

破子陶ひり振夷人上
及申白足供ふる
何れ渡来いー
右島と足支地方を
て水ふるあ組
尋ふる魯西亞國
五綴いふのる
儒流合官物
又是とらふ
右於浴受ふ

お何様と申すは之度及以後何様と申すは書後及後
之為を産殖子陶成り少力を授け子孫一層増進
收るは如右及人より是は作中を極子る毎
ついでに名を召させし由中より其妻御を口
きせし毎毎も届葉出及人より其作中を先年
寄下寄西重よりサツト名を我物帆といふ
其は来日申す魚西重人後其後其妻と最良
物渡り私其何れ後其といふは由年有るは
るしサツト日申す来りし由中後其友より其
カムシヤカ物帆といふ由新下其我の途申すは病

死し由申す日本より其後其何れ其存不
中之如私其妻祖来り其外私其といふは由年
有るは其後其妻といふは由中其カムシヤカ
私何れ後其妻といふは由中其何れ其妻海有
其は何れ後其妻といふは由中其先年寄西重
其後其妻といふは由中其先年寄西重
人より其妻といふは由中其先年寄西重
其は其妻といふは由中其先年寄西重
其は其妻といふは由中其先年寄西重
及礼坊物帆といふは其妻といふは由中其先年寄西重

後水友の在中之彼乞の事は舟私元船に在
向後君先刻中之色米を舟に取乞及是と積
るは流石の儀料何程是の事は宜し中乞は
向後君先刻中之色米を舟に取乞及是と積
るは流石の儀料何程是の事は宜し中乞は
向後君先刻中之色米を舟に取乞及是と積
るは流石の儀料何程是の事は宜し中乞は
向後君先刻中之色米を舟に取乞及是と積
るは流石の儀料何程是の事は宜し中乞は

知るは日能事の中乞は舟私元船に在
向後君先刻中之色米を舟に取乞及是と積
るは流石の儀料何程是の事は宜し中乞は
向後君先刻中之色米を舟に取乞及是と積
るは流石の儀料何程是の事は宜し中乞は
向後君先刻中之色米を舟に取乞及是と積
るは流石の儀料何程是の事は宜し中乞は
向後君先刻中之色米を舟に取乞及是と積
るは流石の儀料何程是の事は宜し中乞は
向後君先刻中之色米を舟に取乞及是と積
るは流石の儀料何程是の事は宜し中乞は
向後君先刻中之色米を舟に取乞及是と積
るは流石の儀料何程是の事は宜し中乞は

扱き追廻捕し外より三人を名捕し之を長七所
出捕内より名捕して三コウを人より進出知日
中人刀を扱追を以る其切を以る又爲りしは
草居の扱を扱持し其捕し外より進出知日
中人刀を扱追を以る其切を以る又爲りしは
此扱を以る其切を以る又爲りしは
を以る其切を以る又爲りしは
此扱を以る其切を以る又爲りしは
を以る其切を以る又爲りしは
此扱を以る其切を以る又爲りしは
を以る其切を以る又爲りしは
此扱を以る其切を以る又爲りしは
を以る其切を以る又爲りしは

扱の事と見候こと此扱を捕し口ハ悪
對不後中名入名と進出知日不
今後之を初お申す此扱を捕し
今私に申す事と見候こと此扱を捕し
三コウを名捕し外より進出知日
中人刀を扱追を以る其切を以る又爲りしは
草居の扱を扱持し其捕し外より進出知日
中人刀を扱追を以る其切を以る又爲りしは
此扱を以る其切を以る又爲りしは
を以る其切を以る又爲りしは
此扱を以る其切を以る又爲りしは
を以る其切を以る又爲りしは
此扱を以る其切を以る又爲りしは
を以る其切を以る又爲りしは
此扱を以る其切を以る又爲りしは
を以る其切を以る又爲りしは

と教は海を存元私由の先有私より活地すは海
に育てりとの存居は私入河方より私と白地方
書後史より第幾下兵公柱又私前と書先は私
民に居るは知退り由今書と私に居流つの中
始末書思は私に作はるは同書柱伝実を以
意入有神は海書高と書思は私と為は海を
由是は私に居るは書私中と書由は巨細は
海を失意は私に居るは書私中と書由は巨細は
痛は私に居るは書私中と書由は巨細は
私に居るは書私中と書由は巨細は

を以世居由官先私より私に居るは書私中と書由は巨細は

魯西亞國曆教千八百十一年

シトロマン

シフニコウ

シイタナト

モウル

カビタン

ガワビン

右魯西亞人由來は始末書思は私に居るは書私中と書由は巨細は
私に居るは書私中と書由は巨細は

五月

上京徳永年

河板原有の横文字を尋ねる

魯西重國の如く此の如くして又魯教の如く
一年

是の二種向文字を以て魯有の由は之と云ふ

イヌノヤノラニス。エノゲイヤノ意を以て向と世古

と魯の如くして魯西重文字を以て魯有の

國を以て之を以て魯西重の如くして又此の如く

及んで魯教とカビタシ地名をガワビシ

右の河板原有の横文字を尋ねる如く尋ねる

と云ふて之を以て魯西重の如くして又此の如く

市井の右河板と文字を尋ねる如く尋ねる

用意の如く魯西重國の外余の如く

一は魯西重國の如くして又此の如く

右の河板原有の横文字を尋ねる

場の人并合する如くして又此の如く

積る如くして魯西重國の如くして又此の如く

名を魯教の中を以て魯西重國の如くして又此の如く

形を以て魯教の中を以て魯西重國の如くして又此の如く

合し西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
右重中書物物と云ふ如く和及人日中云ふ如く
西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中

西文字

上京松原席

先年百中云々西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
先年百中云々西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
先年百中云々西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
先年百中云々西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
先年百中云々西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
先年百中云々西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
先年百中云々西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
先年百中云々西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
先年百中云々西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
先年百中云々西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中

三ヨウ人
ヲロキセ

先年百中云々西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
先年百中云々西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
先年百中云々西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
先年百中云々西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
先年百中云々西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
先年百中云々西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
先年百中云々西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
先年百中云々西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
先年百中云々西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中
先年百中云々西文字重有合々しんりては横文字思ひ烟板中

同和る魯西人殺乳姑を以て殺す云々
口内カウロト云々殺す魯西人殺乳姑を以て殺す
殺すを殺す之を以て殺す云々
ト云々云々を以て殺す云々

世は云々カウロト云々殺す魯西人殺乳姑を以て殺す
天地廣西海也ト云々殺す魯西人殺乳姑を以て殺す
西人殺乳姑を以て殺す魯西人殺乳姑を以て殺す
殺すを殺す之を以て殺す云々
殺すを殺す之を以て殺す云々
殺すを殺す之を以て殺す云々

同和る魯西人殺乳姑を以て殺す云々
去を殺す魯西人殺乳姑を以て殺す云々
去を殺す魯西人殺乳姑を以て殺す云々
去を殺す魯西人殺乳姑を以て殺す云々
去を殺す魯西人殺乳姑を以て殺す云々
去を殺す魯西人殺乳姑を以て殺す云々

去を殺す魯西人殺乳姑を以て殺す云々
殺すを殺す之を以て殺す云々
殺すを殺す之を以て殺す云々
殺すを殺す之を以て殺す云々
殺すを殺す之を以て殺す云々
殺すを殺す之を以て殺す云々

外ラヨワノ人セ同中ニヨ知テ初レ後ノルムセ人ヲ
事ハ以テ有レテ

世段去卯年春魯西垂人平下口ノ事被礼始ハ良
事相人殺シ内ノ人持重ハ月トシテ取テ合ハテ
連病ハ程口マキリカ付ハ終ラヨワノ人内海ノ事
以テ不存ハ事ハ後ニ右御ノ事ニテナリヨ
三ハ元ヨリ有レテ今ノ事ハ右程ノ事ハ
更ニ今ノ事ハ

魯西垂人殺シ被レムカウ程ノ事相人殺シ人
余ノ有レ同知ハ事ハ程ノ事ハ平下口ノ事ハ

殺シ被レムカウ程ノ事相人殺シ人
トハ内ノ事ハ元ヨリ有レテ今ノ事ハ右程ノ事ハ
三ハ元ヨリ有レテ今ノ事ハ右程ノ事ハ
魯西垂人殺シ被レムカウ程ノ事相人殺シ人

は後ニヨリ有レテ今ノ事ハ右程ノ事ハ
レ後有レムカウ程ノ事相人殺シ人
レ事ハ元ヨリ有レテ今ノ事ハ右程ノ事ハ
一ヨリ有レテ今ノ事ハ右程ノ事ハ
三ハ元ヨリ有レテ今ノ事ハ右程ノ事ハ
辰年秋魯西垂人殺シ被レムカウ程ノ事相人

宗祖ノ教ヲ捨テ人オリ有クテヨクテ至クテモ志ヲ
及人ノ外私欲ヲモテテテハレロウクテ至クテ
中志宗祖ノ徳ヲ徳入ルモ志ヲテテテテテテテ
至聖ヲ加テテテテテテテテテテテテテテテテ
不中ノ所ヲテテテテテテテテテテテテテテテテ
ノ志ヲテテテテテテテテテテテテテテテテテテ
及後テテテテテテテテテテテテテテテテテテテ
初テテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ
堅固ノ所ヲテテテテテテテテテテテテテテテテ
一々

右ノヨリ人オリ有クテヨクテ至クテモ志ヲ
及人ノ外私欲ヲモテテテハレロウクテ至クテ

庚子月

村直信録書
荒尾祖書

Handwritten text in a cursive style, possibly representing numbers or measurements, arranged in several lines.

Vertical rectangular stamp or seal impression at the top of the page.

Table with multiple columns and rows, containing handwritten entries. The text is arranged in a structured grid format.

